



令和7年10月15日
第898号

一般財団法人日本遺族会
〒100-0044 東京都千代田区
九段南一丁目六番五号
九段会館テラス四階
電話 03-3261-5521
振替 00160-6-25389
編集 発行人 齋川英治
毎月1回15日発行
定価 1部130円(税込)

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

終戦80周年 記念事業

アメリカ慰霊施設等を訪問

米高官へ遺族の覚悟表明

日本遺族会は「終戦80周年記念事業・アメリカ慰霊施設等訪問」を実施した。本会役員、支部代表10人による訪問団は、アーリントン国立墓地、アリゾナ記念館等で慰霊追悼した他、米国防務省、議会関係者と面会し、靖国神社に対する遺族の心情について理解を求めるとともに、寄せ書きの丸等の遺留品返還事業への協力を要請した。

慰霊施設で戦没者を追悼
水落敏栄会長を団長とする訪問団は、9月1日

に都内で結団式を行い、翌2日、訪米。
2日、ワシントンDC

に到着後、在米日本国大使館で山田重夫大使と面会し、本訪問に伴う関係

機関への面会調整等の手配について謝意を伝えた。
3日、米建國から現在

まで国家に一命を捧げた兵士やその家族等約30万人が埋葬されているアーリントン国立墓地を訪れ、衛兵の先導に従い、本会役員4人(水落会長、國政隆昭、安齋満副会長、江田肇常務理事)が「無名戦士の墓」に代表献花し、全員で戦没者の冥福を祈った。献花式には日章旗等の返還事業で本会と業務提携しているOB ONサエティとその関係者19人が共に参列した。

慰霊施設、日本の降伏文書調印式が行われた戦艦ミズーリ記念館を視察。また、約5万3千人の戦没者が眠るパンチボール国立太平洋記念墓地を訪れ、國政・安齋副会長と江田常務理事が代表献花、全員で黙祷を捧げた。

落会長が、創設以来の本会の理念を体現する「平和の語り部」の意義を説明したうえで、遺族の精神的支柱である靖国神社への思いを伝え、国策により一命を捧げた戦没者に国を代表する総理・閣僚が不戦の誓いとして参拝することに理解を求めた。また、遺品返還事業への協力とOB ONサエティへの財政支援を要請した。

この他、5日にはホルルで米国防総省捕虜行方不明者調査局(DPAA)を訪れ、遺骨収集事業について協議した。(3面に掲載)

一般財団法人日本遺族会の活動へのご理解、ご協力をお願い(要旨)

私ども日本遺族会は、先の大戦で、国策により肉親を失った戦没者の遺族で組織しています。「二度と戦没者遺族を出さない」という固い決意のもと、恒久平和な社会の構築を目指し、昭和22年の結成以来、78年の長きに亘り、活動を重ねています。

活動の根幹は一貫して「戦争の記憶の継承」であり、戦没者をはじめとする多くの犠牲を伝え、戦争の悲惨さ、平和の尊さを訴えるものであります。

中でも遺族が何よりも願うご遺骨を故郷に迎えるための遺骨収集事業は、戦争の終結から長い年月の経過を経て、当時を知る人がわずかとなり、気候風土もあいまって、困難を極めています。高齢となった遺族が元気なうちに、遺骨が祖国に、故郷に帰り、遺族の胸に抱くことが出来るよう、更なるご協力いただきたくお願い申し上げます。

また、遺骨はおろか遺品さえ持ち合わせない遺族にとって、出征に際し地域から送られた戦没者が身に付けていた寄せ書きの丸は、遺骨に違わない戦没者を偲ぶ品です。同様に、寄せ書きの丸を遺族のもとに返還するため、お力添え賜りますようお願いいたします。

今年は、太平洋戦争終結から80年の節目を迎えます。我が国の国民の大多数が、戦後生まれとなり、戦争の記憶は風化する一方、世界では争いが絶えず悲しみは繰り返されています。

現在、戦没者遺族の戦中戦後の体験、記憶を伝え、次世代と共に戦争と平和について考える機会とする「平和の語り部事業」に注力しています。私どもは、戦争の悲惨さ、平和の尊さを、身をもって体験した戦没者遺族の記憶は、二度と戦争の惨禍を繰り返さないための貴重な教訓であるという考えのもと、遺族の記憶と戦時中の地域の歴史を伝え、ありふれた日常が戦争によって奪われた話を伝えています。

私どもは、戦争に理由はなく、憎しみ、悲しみしか生み出さない。だから絶対にやってはいけない。平和とはいかに尊いものなのかを「平和の語り部」として伝え続けてまいります。

戦没者遺族にとって、恒久平和な社会への強い願いは、肉親への慕情が源泉であり、御霊が祀られる靖国神社は、いわば愛しい肉親に会える場所であり、私ども遺族にとって、何物にも代えることのできない精神的支柱であります。靖国神社への参拝は、平和への誓いを新たにす以外の何物でもありません。

そして、私どもが国家を代表する総理・閣僚はもとより、国民の代表たる国会議員に靖国神社参拝を求めるのは、国家のために一命を捧げた戦没者の御霊に慰霊を捧げるとともに、戦争の惨禍を繰り返さず、恒久平和な社会構築に努力し続ける宣誓をしてもらいためであります。どうか、私どもの願いにご理解賜りますよう、切にお願い申し上げます。

平和を守るために必要なことは、「戦争は絶対に起こしてはいけない」と多くの人の胸に刻むことだと考えています。私どもの力は大きくありませんが、「二度と私どものような思いをさせたくない」とする切実な強い願いを訴え続け、次世代へ戦争の記憶を継承し、恒久平和な社会の構築のために愚直に努力を重ねてまいりますことをここにお願い申し上げます。

一般財団法人日本遺族会
会長 水落敏栄



国務省に靖国神社に対する遺族の心情に理解を求める
水落会長=9月3日、ワシントンDCで

4日、ワシントンDCを出発し、ハワイ州ホノルルに到着。兒玉良則在ホノルル日本国総領事の

本訪問の最大の目的は、我が国の戦没者遺族の恒久平和への強い願いと精神的支柱である靖国神社への思いに理解を得

るものであり、水落会長が遺族協議員協議会の逢沢一郎会長ら役員に相談。共鳴した役員は働きかけにより、外務省を通じて米政府、議会関係者との面談が初めて実現した。

9月3日、ワシントンDCでは日本大使館の手配で国務省東アジア・太平洋局担当のセス・ベイリー氏、ウィリアム・ハガティ共和党上院議員(元駐日大使)とそれぞれ面会。事前に手交していたレターに基づき、水



アーリントン国立墓地で供花し、戦没者の冥福を祈る
=9月3日、ワシントンDCで

訪問団名簿(敬称略)
水落敏栄(会長)、國政隆昭(副会長)、安齋満(副会長)、江田肇(常務理事)、澤原善男(福島県)、渡辺盛夫(東京都)、高崎昭彦(神奈川県)、内田利彦(埼玉県)、國政恵子(鳥取県)、上田繁人(鳥取県)
※本訪問団は自費参加。

英霊の御心を
次の世代に伝えましょう



●振込先
維持会費は、左記宛に送金願います。
郵便局 郵便振替
口座 〇〇一六〇一七〇四三三
番号 靖国カレンダー業務室
口座名 英霊にこたえる会
靖国カレンダー業務室



1-2月 靖国神社初詣

令和8年版
「靖国」カレンダーを
家庭にかかげましょう

●申し込み方法
維持会費 一口七〇〇円(送料別途)

①「英霊にこたえる会」

靖国カレンダー業務室

〒100-0073

東京都千代田区九段北三一一

靖国神社遊就館内

電話 〇三三二六四一四六〇

FAX 〇三三二六一七四一五

E-mail: eirei@deluxe.ocn.ne.jp

HP: https://www.eirei-kotenkai.com

②別途申込書で、お住まいの「英霊にこたえる会」都道府県本部宛。

部数は、一部(一口)から取り扱っております。送料は一部三〇〇円、二部三三〇円、三部以上は前記「都道府県本部」または「靖国カレンダー業務室」にお問い合わせ下さい。

令和8年度 遺族処遇改善項目

【令和7年8月29日 概算要求】

恩給法関係	
1 恩給費	427億円
厚生労働省関係	
1 援護年金	22億円
2 戦没者等の遺族に対する特別弔慰金の支給	12億円
3 遺骨収集事業等の推進	39億円
(1) 遺骨収集事業	28億円
・硫黄島における遺骨収集事業	13億円
・海外等における遺骨収集事業	14億円
・法人運営経費	1億8,000万円
(2) 海外公文書館の資料収集	1,800万円
(3) 遺骨の鑑定	10億円
(4) 遺骨・遺留品の伝達	5,700万円
うち、戦没者等の遺留品の返還に伴う調査一式	(1,700万円)
4 戦没者の慰霊・記憶の継承	14億円
(1) 慰霊事業	4億8,000万円
・全国戦没者追悼式の実施	2億3,000万円
・慰霊巡行	1億4,000万円
・政府建立慰霊碑の補修等	1億2,000万円
(2) 平和の語り部事業	2億6,000万円
(3) 民間慰霊碑の調査・移設等	7,600万円
・海外・国内民間建立慰霊碑調査等	4,600万円
・国内民間建立慰霊碑の移設等	3,000万円
(4) 地域における慰霊と記憶継承の検討の支援	1,000万円
(5) 昭和館事業	5億3,000万円

※四捨五入しているため、各欄の増減が一致しない場合がある



語り部事業の更なる推進へ協力を仰ぐ水落会長
=9月25日、埼玉県で

平和の語り部

ブロック別研修会を開催

語り部を共通課題に研修

例年、地域の課題を審議するブロック会議を昨年度より語り部事業を共通課題とする研修会として開催。本部は事業計画を説明。昭和100年となる次年度に記憶の継承を普遍的課題とするための広報と育成。中でも多くのニーズに応え実施するため多様な形態(相互発信となる体験・対話型等)を提案。翌日は語り部大会を開催した。(別掲)

○第5B(九州・沖縄) 鹿児島県で開
9月18日) 鹿児島県で開
催。幹事県として長崎県
が運営。
特記事項 広報と育成両
輪の展開。行政を巻き込
代の育成、実施(宮崎県、
特記事項 広報と育成両
輪の展開。行政を巻き込
代の育成、実施(宮崎県、

鹿児島県、県下全域で
の研修会(長崎県、慰
霊碑前、体験型の実施(沖
縄県、同日7校、斉講話
(大分県)等。
○第2B(関東甲信越静
9月25日)埼玉県で開催。
特記事項 広報と育成両
輪の展開。自治体の追悼式、
関連行事を活用した広
報。追悼式での講話。静
岡県、新潟県、都庁と
共催企画(遺品展示室ツ
アー・語り部・座談会、
東京都、県庁との企画
展(展示・語り部・朗読
会・神奈川県、県追悼
式関連の講話会(千葉
県。親会・女性部・次

世代との研修、各地への
派遣(埼玉県、群馬県、
栃木県、山梨県、長野県、
県立歴史館との協定(茨
城県)。
○第4B(中国・四国9
月27日)島根県で開催。
交通機関の不運などアク
シデントに見舞われた。
特記事項 広報と育成両
輪の展開。所有施設を利
用した広報・育成と実施
(徳島県、岡山県、自治
体の追悼式等に関連した
広報(鳥取県、島根県、

香川県、愛媛県、高知県、
親会・女性部、青年部の
研修、実施(広島県、山
口県)。
全体意見 行政(県)、首
長、国・県議員等が来賓
として出席。遺族会が取
り組む語り部事業の重要
性を評価。次世代による
継続に期待を示された。
節目の年、また教育委
員会への通知により行政
の理解が深まり学校講話
に加え、自治体行事で講
話機会が多く得られてお
り、学校講話は昨年の約
2倍の見通し。今後の課
題は更なる講話者の掘り
起し、育成。
慰霊碑調査は自治体の
積極的協力なくして実施
不可能との意見が大半を
占めた。国策による召集
の意味、その上で地域慰
霊を担う遺族会の存続の
重要性が話し合われた。

と示唆。鎌田伸
次アドバイザー
(宮崎県事務局
長)は短い時
間でも遺児が話
すことが事業に厚
みを与えること
を語った。
○第2B(9月
26日)
埼玉県で開催。
講話者は桶川飛
行学校平和祈念館の開館
に尽力し県内外で講話を
行う白田智子氏(埼玉県
副知事兼女性部長)本学
校の教官で自らも特攻に
より戦死された父佐井大
尉の家族への遺書、母の
思い、特攻隊の遺族との
交流を通し、戦争の悲惨
さを伝えた。
次世代の講話者は濱田
望氏(戦没者の甥、神
奈川県常務理事兼青年部
長)青年部の伝承を模索
する中で、戦後65年発行
の手記から次世代へ伝え
たい話の朗読会を企画。
8月、県と共催の企画展
で初披露。大きな反響を
得る。聴講者の理解を深
めるサポートとして本部
でスライド(PPT資料)
BGMを提供し朗読。今
や聞くことの出来ない戦
没者の妻等の手記の朗読
に複数支部より挑戦した
いとの意見が聞かれた。
また、朗読劇には東京
都、茨城県、群馬県、栃
木県、山梨県、長野県、
新潟県より親会・女性部、
青年部・事務局が出演。
大石功本部長が推進
委員(静岡県顧問)から
は、浜松市での取組みを、

ブロック別語り部大会

体験・対話型の実演、提案

節目の年に語り部の広
報と更なる育成を企図し
たブロック別語り部大会
の様相を紹介する。本部
は事業の多様性示すた
め、体験者・次世代の講
話、各地域代表選抜の朗
読劇を共通テーマとし、
朗読劇は事後学習の座談
会を提案、意見交換を
行った。

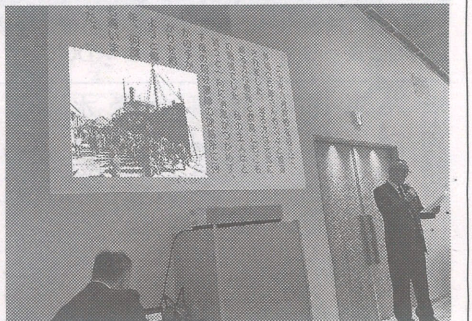


実物を見せることの重要性を話す吉見氏
=9月19日、鹿児島県で

教員を退職後、遺族会
活動に参画。活動のきつ
かけは令和2年に孫のり
ん花さんが応募したス
ピーチコンテスト。内容
は自身が遺児慰霊友好親
善事業に参加し、父の終
焉の地に行き、初めて
「お父さん」と呼びかけ
ることが出来たという話
を掘り下げ、当たり前の
と思っていた日常が平和
による尊いものと綴って
いることを知り、次世代
へ思いは伝わるかと感じ、
以降、学校、自治会、民
間団体での講話活動を続
けている。伝えようとす
る気持ちが大切と語った。
次世代の講話は岩切義
樹氏(戦没者の孫)県
連青年部研修(知覧特攻
会館視察等)を経て記憶
の継承の重要性を学ん
だ。在住する角川町の隣
町からの講話依頼を受
け、地元の歴史(延岡空
襲、水上特攻艇「震洋」
を博物館、地域の取材(現
地や住民への聞き取り)
を重ねた。生徒の理解を
促すため、金沢市遺族友
の会制作の絵本「みんな
で学ぶ戦中・戦後のくら
し」、延岡空襲の体験者
の証言映像も加え、当時
の生活を伝えた。
また、朗読劇には、福
岡県、佐賀県、大分県、
長崎県、熊本
県、沖縄県よ
り親会・女性
部・青年部が
出演。
制作者の西
田富子アドバ
イザー(佐賀
県会長兼女性
部長)は次世
代との上演は
学びを深める

間島英夫アドバイザー
(新潟県理事)
からは妙高市で
の語り部育成の
取り組みが紹介さ
れた。
○第4B(9月
28日)
島根県で開催。
講話者は県内の
活動者をけん引す
る原晴昌氏(島
根県副会長)地
元コミセンとの共催によ
る講話、実物展示、青年
部との体験型(次世代追
悼式参列)、実物展示など
を紹介。居住地域など出
来る範囲から活動を始め
ることの重要性を伝えた。
次世代は黒川真介氏、
中岡美佳氏(戦没者の孫、
高知県青年部長、副部
長)。慰霊碑のいわれを
伝える学生との清掃(夏
ボラ)、体験者の記憶の
聞き取りに加え、今夏完
成した戦地からの手紙を
地元高校放送部が朗読す
る動画制作が紹介され
た。過程を追った報道番
組も放映された。「出来
ない」を言い訳にしない
とする高知県遺族会青年
部の信念に拍手が起こっ

た。また、朗読劇には鳥
取県、岡山県、広島県、
山口県、香川県、徳島県、
愛媛県より親会・女性部、
青年部が出演。
演劇子本部語り部事業
化推進委員(本会女性部
副部長、徳島県副会長兼
女性部長)は鳥取県での
語り部の報告、増本信行
アドバイザー(岡山県事
務局長)からは出来るこ
とを重ねる島根県の取組
み、活動を模索する高知
県青年部の取組みに賛辞
が贈られた。
各ブロックとも取材
(報道・学生)が行われ、
各地の講話、中でも朗読
劇は次世代との共演とし
て熱演が伝えられ大きな
反響を得た。



記念手記の朗読 = 9月26日、埼玉県で

厚生労働省で 人事異動

厚生労働省で人事異動
が行なわれた。
本会に関係のある方は
次のとおり。
大臣官房審議官(援護
担当)
伊澤 知法氏
(9月30日付)



朗読劇の上演 = 9月28日、島根県で

声なき声

巷では10月1
日は「コーヒー
の日」や「日本
酒の日」の記念
日であり、東海
道新幹線が開業した日でも
ある。しかし小欄とし
てはどうしても忘れるこ
とのできない日、それは
九段会館創業記念日であ
る。昭和42年発行した
「九段会館のあゆみ」に
よれば、昭和32年10月1
日、秋晴れの空の下、新
装成った会館大ホールに
おいて盛大に開館式が行
われ、初代会長の高橋龍
太郎氏は「自らの会館
は自分の手で」を信条に、
全国戦没者遺族の力を集
め、改装、整備し、館の
名称も地名をとって「九
段会館」と改め、全館開
館の運びとなった」とと
述べている。戦没者遺族
の殿堂として全館オープ
ンし、当時の宿泊料金は、
一般団体は2食付(米持
参)で500円から、個
人は朝夕1泊500円か
ら800円の4通りで、
夕食希望者は150円、
200円を支払えば、用
意をしたとある。そして
何よりも、結婚式の先
駆けとしてあゆみ、平成
23年の廃業まで戦没者遺
児らを含む7万5000
組余の縁結びのお手伝
いをした。今では九段会
館テラスとして名称も新
たに、縁結びのお手伝
いをしている。講話者の皆
さんの周りで良縁を考え
ている方がいれば、是非、
九段会館テラスがある
よ。親子三代、九段
の杜での縁結び、是非声
をかけてほしい。(M)

令和7年度・戦没者遺児による慰霊友好親善事業・実施計画概要

	実施地域	実 施 時 期		募集人員	申 込 締 切
		主 な 訪 問 予 定 地			
1	ミャンマー (特定地域)	令和8年3月7日（土）～3月15日（日）			令和7年12月5日
		前班 令和8年3月7日（土）～3月13日（金）	6泊7日	30人	
		後班 令和8年3月9日（月）～3月15日（日）	6泊7日	30人	
		・ヤンゴン（ラングーン）、バグー			

慰霊友好親善事業
令和7年度で事業終了
ミャンマー地域参加者募集

日本遺族会が厚生労働省から補助を受け実施する「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」では、最終年となる令和7年度の参加者を募集している。終戦80年の今年、事業実施35周年となる本事業では、ミャンマー地域を6年振りに実施する。本年度で最後の事業実施となるため、一人でも多くの遺児に青年部世代とともに参加願いたい。

「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」では、令和7年度ミャンマー地域の参加者を募集している。令和元年12月の訪問以来6年振り実施となる。戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継ぐことを目的に、青年部育成の一環として、付添者で戦没者の孫、ひ孫、甥、姪の青年部は国より3分の1の補助※が受けられるため、是非この機会に一人でも多くの遺児に青年部と共に参加願いたい。

募集要項は次の通り。
▼時期及び地域 実施計画概要参照。
▼参加費 10万円。
東京等に集合し、結団式及び渡航に係る説明会を行う。なお、集合場所まで及び解散場所からの

交通機関は自身の手配となる。また、移動に係る国内交通費及び帰国時の宿泊代、渡航手続き手数料等費用は、個人負担となる。
※付添者の補助は、実際に掛かる旅行費用の3分の1が対象となる。

DPA Aを訪問し意見交換

科学的な取り組みを理解

「終戦80周年記念事業・アメリカ慰霊施設等訪問」で(一面記事掲載)訪問団は、ハワイ州ホノルルの米国防総省捕虜行方不明者調査局(DPAA)の本部に入構する許可を得て、ジョン・ワイグレス最高責任者、ジョン・バード博士らと面会し、戦没者遺骨収集事業について意見交換した。

訪問団団長の水落敏栄会長は冒頭、「戦没者の遺骨収集の身元特定のため安定同位体分析の活用など、日本政府とDPAAが技術的な面においてさらに連携を強化し、一柱でも多くの遺骨が遺族へ返還されることを願っている」と挨拶した。



DPA Aの代表と意見交換する訪問団
= 9月5日、ホノルルで

ワイグレス氏は、国防総省では遺骨収集事業は人道的な取り組みとして認識されており、神聖な義務として米国会議、退役軍人団体などから幅広い支援を受けていると話した。

また、水落会長は、硫黄島から送還された米兵の遺骨の中に日本兵の遺骨が含まれている可能性があることを指摘した。

意見交換の後、訪問団は、ジェニー・ジン博士の案内で、普段は立ち入ることができない遺骨鑑定研究所を視察した。

ジン博士は鑑定プロセスを解説しながら、DPAAでは必ず戦没者の遺族へ詳細なヒアリングを行う。たうで遺骨を捜索し、発見された遺骨が本人の遺骨と判明した場合は、厳密に発行する返還セレモニーで遺骨が遺族へ引き渡されると説明した。

今回の訪問は、遺骨の正確な判断をするための1が対象となる。

分の1が対象となる。

参加資格 戦没者の遺児(周辺公海上を含む実施地域で父等と亡くした方に限る)

申込方法 在住の各都道府県遺族会事務局長へ。参加者の資格審査には、申込書の記載内容を確認するため、事前に申込書を取り寄せ、記入項目に記入した上で提出願う。

なお、申込多数の場合は選考となる。

実施地域や実施時期等は、相手国や交通機関等の事情で変更、中止となる場合がある。また、参加者の高齢化に考慮し看護士が同行する。

海外の現地調査では、米国立公文書館の埋葬地資料情報に基づき、パラオ諸島のペリリュー島で埋葬者数1086名の集団埋葬地、アンガウル島でサイパン日本人墓地に358名の集団埋葬地を

相次いで特定した。さらにマリアナ諸島のテナアン島では「テナアン第2日本人墓地」143名の集団埋葬地を特定、順次発見した遺骨を収容しDNA鑑定用の検体を採取して、遺骨収集派遣で直接に送還できるよう進めている。

また、トラック諸島(現ミクロネシア連邦チューク州)北水道付近沖で撃沈された「追風」から発見された遺骨の収容を行い、夏島東方沖の沈没船「愛国丸」では遺骨調査を行った。

モンゴルではハルハゴル村でノモンハン事件の戦没者遺骨推定17柱(レミゾフ高地14柱、バルシヤガル西高地3柱)を収容し、それぞれ検体を採取し送還し、厚生労働省へ引き渡した。今後、人種の特定と戦没者の身元を特定するDNA鑑定が行われる。

なお、硫黄島は、渇水

による影響で9月中旬に予定されていた遺骨収集派遣(第2次)は現地の状況により中止となった。

受入れの都合により延期となり、その後火山活動により中止となった。

モンゴル・ハルハゴル村レミゾフ高地でノモンハン事件の戦没者遺骨を収容する団員=7月30日、モンゴル・レミゾフ高地で

沈没した「追風」から発見された遺骨の収容を行い、夏島東方沖の沈没船「愛国丸」では遺骨調査を行った。

モンゴルではハルハゴル村でノモンハン事件の戦没者遺骨推定17柱(レミゾフ高地14柱、バルシヤガル西高地3柱)を収容し、それぞれ検体を採取し送還し、厚生労働省へ引き渡した。今後、人種の特定と戦没者の身元を特定するDNA鑑定が行われる。

なお、硫黄島は、渇水

による影響で9月中旬に予定されていた遺骨収集派遣(第2次)は現地の状況により中止となった。

受入れの都合により延期となり、その後火山活動により中止となった。

モンゴル・ハルハゴル村レミゾフ高地でノモンハン事件の戦没者遺骨を収容する団員=7月30日、モンゴル・レミゾフ高地で

沈没した「追風」から発見された遺骨の収容を行い、夏島東方沖の沈没船「愛国丸」では遺骨調査を行った。

モンゴルではハルハゴル村でノモンハン事件の戦没者遺骨推定17柱(レミゾフ高地14柱、バルシヤガル西高地3柱)を収容し、それぞれ検体を採取し送還し、厚生労働省へ引き渡した。今後、人種の特定と戦没者の身元を特定するDNA鑑定が行われる。

なお、硫黄島は、渇水

による影響で9月中旬に予定されていた遺骨収集派遣(第2次)は現地の状況により中止となった。

受入れの都合により延期となり、その後火山活動により中止となった。

モンゴル・ハルハゴル村レミゾフ高地でノモンハン事件の戦没者遺骨を収容する団員=7月30日、モンゴル・レミゾフ高地で

沈没した「追風」から発見された遺骨の収容を行い、夏島東方沖の沈没船「愛国丸」では遺骨調査を行った。

モンゴルではハルハゴル村でノモンハン事件の戦没者遺骨推定17柱(レミゾフ高地14柱、バルシヤガル西高地3柱)を収容し、それぞれ検体を採取し送還し、厚生労働省へ引き渡した。今後、人種の特定と戦没者の身元を特定するDNA鑑定が行われる。

なお、硫黄島は、渇水

による影響で9月中旬に予定されていた遺骨収集派遣(第2次)は現地の状況により中止となった。

受入れの都合により延期となり、その後火山活動により中止となった。

モンゴル・ハルハゴル村レミゾフ高地でノモンハン事件の戦没者遺骨を収容する団員=7月30日、モンゴル・レミゾフ高地で

沈没した「追風」から発見された遺骨の収容を行い、夏島東方沖の沈没船「愛国丸」では遺骨調査を行った。

モンゴルではハルハゴル村でノモンハン事件の戦没者遺骨推定17柱(レミゾフ高地14柱、バルシヤガル西高地3柱)を収容し、それぞれ検体を採取し送還し、厚生労働省へ引き渡した。今後、人種の特定と戦没者の身元を特定するDNA鑑定が行われる。

なお、硫黄島は、渇水

による影響で9月中旬に予定されていた遺骨収集派遣(第2次)は現地の状況により中止となった。

受入れの都合により延期となり、その後火山活動により中止となった。

モンゴル・ハルハゴル村レミゾフ高地でノモンハン事件の戦没者遺骨を収容する団員=7月30日、モンゴル・レミゾフ高地で

沈没した「追風」から発見された遺骨の収容を行い、夏島東方沖の沈没船「愛国丸」では遺骨調査を行った。

モンゴルではハルハゴル村でノモンハン事件の戦没者遺骨推定17柱(レミゾフ高地14柱、バルシヤガル西高地3柱)を収容し、それぞれ検体を採取し送還し、厚生労働省へ引き渡した。今後、人種の特定と戦没者の身元を特定するDNA鑑定が行われる。

なお、硫黄島は、渇水

による影響で9月中旬に予定されていた遺骨収集派遣(第2次)は現地の状況により中止となった。

受入れの都合により延期となり、その後火山活動により中止となった。

モンゴル・ハルハゴル村レミゾフ高地でノモンハン事件の戦没者遺骨を収容する団員=7月30日、モンゴル・レミゾフ高地で

沈没した「追風」から発見された遺骨の収容を行い、夏島東方沖の沈没船「愛国丸」では遺骨調査を行った。

モンゴルではハルハゴル村でノモンハン事件の戦没者遺骨推定17柱(レミゾフ高地14柱、バルシヤガル西高地3柱)を収容し、それぞれ検体を採取し送還し、厚生労働省へ引き渡した。今後、人種の特定と戦没者の身元を特定するDNA鑑定が行われる。

なお、硫黄島は、渇水

による影響で9月中旬に予定されていた遺骨収集派遣(第2次)は現地の状況により中止となった。

受入れの都合により延期となり、その後火山活動により中止となった。

モンゴル・ハルハゴル村レミゾフ高地でノモンハン事件の戦没者遺骨を収容する団員=7月30日、モンゴル・レミゾフ高地で

沈没した「追風」から発見された遺骨の収容を行い、夏島東方沖の沈没船「愛国丸」では遺骨調査を行った。

モンゴルではハルハゴル村でノモンハン事件の戦没者遺骨推定17柱(レミゾフ高地14柱、バルシヤガル西高地3柱)を収容し、それぞれ検体を採取し送還し、厚生労働省へ引き渡した。今後、人種の特定と戦没者の身元を特定するDNA鑑定が行われる。

なお、硫黄島は、渇水

による影響で9月中旬に予定されていた遺骨収集派遣(第2次)は現地の状況により中止となった。

受入れの都合により延期となり、その後火山活動により中止となった。

モンゴル・ハルハゴル村レミゾフ高地でノモンハン事件の戦没者遺骨を収容する団員=7月30日、モンゴル・レミゾフ高地で

沈没した「追風」から発見された遺骨の収容を行い、夏島東方沖の沈没船「愛国丸」では遺骨調査を行った。

モンゴルではハルハゴル村でノモンハン事件の戦没者遺骨推定17柱(レミゾフ高地14柱、バルシヤガル西高地3柱)を収容し、それぞれ検体を採取し送還し、厚生労働省へ引き渡した。今後、人種の特定と戦没者の身元を特定するDNA鑑定が行われる。

なお、硫黄島は、渇水

による影響で9月中旬に予定されていた遺骨収集派遣(第2次)は現地の状況により中止となった。

受入れの都合により延期となり、その後火山活動により中止となった。

モンゴル・ハルハゴル村レミゾフ高地でノモンハン事件の戦没者遺骨を収容する団員=7月30日、モンゴル・レミゾフ高地で

沈没した「追風」から発見された遺骨の収容を行い、夏島東方沖の沈没船「愛国丸」では遺骨調査を行った。

モンゴルではハルハゴル村でノモンハン事件の戦没者遺骨推定17柱(レミゾフ高地14柱、バルシヤガル西高地3柱)を収容し、それぞれ検体を採取し送還し、厚生労働省へ引き渡した。今後、人種の特定と戦没者の身元を特定するDNA鑑定が行われる。

なお、硫黄島は、渇水

による影響で9月中旬に予定されていた遺骨収集派遣(第2次)は現地の状況により中止となった。

受入れの都合により延期となり、その後火山活動により中止となった。

モンゴル・ハルハゴル村レミゾフ高地でノモンハン事件の戦没者遺骨を収容する団員=7月30日、モンゴル・レミゾフ高地で

沈没した「追風」から発見された遺骨の収容を行い、夏島東方沖の沈没船「愛国丸」では遺骨調査を行った。

モンゴルではハルハゴル村でノモンハン事件の戦没者遺骨推定17柱(レミゾフ高地14柱、バルシヤガル西高地3柱)を収容し、それぞれ検体を採取し送還し、厚生労働省へ引き渡した。今後、人種の特定と戦没者の身元を特定するDNA鑑定が行われる。

なお、硫黄島は、渇水

による影響で9月中旬に予定されていた遺骨収集派遣(第2次)は現地の状況により中止となった。

受入れの都合により延期となり、その後火山活動により中止となった。

モンゴル・ハルハゴル村レミゾフ高地でノモンハン事件の戦没者遺骨を収容する団員=7月30日、モンゴル・レミゾフ高地で

沈没した「追風」から発見された遺骨の収容を行い、夏島東方沖の沈没船「愛国丸」では遺骨調査を行った。

モンゴルではハルハゴル村でノモンハン事件の戦没者遺骨推定17柱(レミゾフ高地14柱、バルシヤガル西高地3柱)を収容し、それぞれ検体を採取し送還し、厚生労働省へ引き渡した。今後、人種の特定と戦没者の身元を特定するDNA鑑定が行われる。

なお、硫黄島は、渇水

による影響で9月中旬に予定されていた遺骨収集派遣(第2次)は現地の状況により中止となった。

受入れの都合により延期となり、その後火山活動により中止となった。

モンゴル・ハルハゴル村レミゾフ高地でノモンハン事件の戦没者遺骨を収容する団員=7月30日、モンゴル・レミゾフ高地で

沈没した「追風」から発見された遺骨の収容を行い、夏島東方沖の沈没船「愛国丸」では遺骨調査を行った。

モンゴルではハルハゴル村でノモンハン事件の戦没者遺骨推定17柱(レミゾフ高地14柱、バルシヤガル西高地3柱)を収容し、それぞれ検体を採取し送還し、厚生労働省へ引き渡した。今後、人種の特定と戦没者の身元を特定するDNA鑑定が行われる。

なお、硫黄島は、渇水

による影響で9月中旬に予定されていた遺骨収集派遣(第2次)は現地の状況により中止となった。

受入れの都合により延期となり、その後火山活動により中止となった。

モンゴル・ハルハゴル村レミゾフ高地でノモンハン事件の戦没者遺骨を収容する団員=7月30日、モンゴル・レミゾフ高地で

沈没した「追風」から発見された遺骨の収容を行い、夏島東方沖の沈没船「愛国丸」では遺骨調査を行った。

モンゴルではハルハゴル村でノモンハン事件の戦没者遺骨推定17柱(レミゾフ高地14柱、バルシヤガル西高地3柱)を収容し、それぞれ検体を採取し送還し、厚生労働省へ引き渡した。今後、人種の特定と戦没者の身元を特定するDNA鑑定が行われる。

なお、硫黄島は、渇水

による影響で9月中旬に予定されていた遺骨収集派遣(第2次)は現地の状況により中止となった。

受入れの都合により延期となり、その後火山活動により中止となった。

モンゴル・ハルハゴル村レミゾフ高地でノモンハン事件の戦没者遺骨を収容する団員=7月30日、モンゴル・レミゾフ高地で

沈没した「追風」から発見された遺骨の収容を行い、夏島東方沖の沈没船「愛国丸」では遺骨調査を行った。

モンゴルではハルハゴル村でノモンハン事件の戦没者遺骨推定17柱(レミゾフ高地14柱、バルシヤガル西高地3柱)を収容し、それぞれ検体を採取し送還し、厚生労働省へ引き渡した。今後、人種の特定と戦没者の身元を特定するDNA鑑定が行われる。

なお、硫黄島は、渇水

による影響で9月中旬に予定されていた遺骨収集派遣(第2次)は現地の状況により中止となった。

受入れの都合により延期となり、その後火山活動により中止となった。

モンゴル・ハルハゴル村レミゾフ高地でノモンハン事件の戦没者遺骨を収容する団員=7月30日、モンゴル・レミゾフ高地で

沈没した「追風」から発見された遺骨の収容を行い、夏島東方沖の沈没船「愛国丸」では遺骨調査を行った。

モンゴルではハルハゴル村でノモンハン事件の戦没者遺骨推定17柱(レミゾフ高地14柱、バルシヤガル西高地3柱)を収容し、それぞれ検体を採取し送還し、厚生労働省へ引き渡した。今後、人種の特定と戦没者の身元を特定するDNA鑑定が行われる。

なお、硫黄島は、渇水

による影響で9月中旬に予定されていた遺骨収集派遣(第2次)は現地の状況により中止となった。

受入れの都合により延期となり、その後火山活動により中止となった。

モンゴル・ハルハゴル村レミゾフ高地でノモンハン事件の戦没者遺骨を収容する団員=7月30日、モンゴル・レミゾフ高地で

日本遺族会への賛助金のお願い

日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族支援、慰霊友好親善事業、遺骨収集帰還等各種事業の活動のために賛助金を募っております。

本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛同いただきますようお願い申し上げます。

●郵便振替
0013002694929

●みずほ銀行 九段支店
普通預金 00808030

※口座名は「一般財団法人日本遺族会」サレニニホニツカイ

参加者の皆様へ

本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報(「個人情報保護法」の定めにより、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照されたい)を本会にお知らせください。

平和の語り部

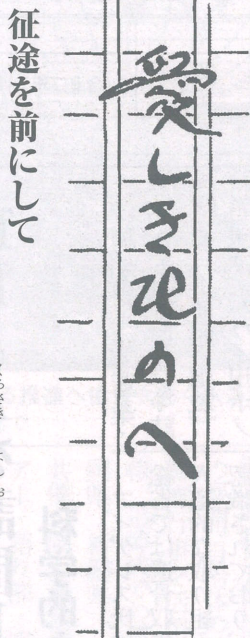
第7回定期講話会を開催

戦争の傷あとを考える講話会

戦争体験者の遺族と戦後生まれの青年部が共に記憶の伝承に取組む遺族会の語り部事業の普及、拡大を図るための本部主催第7回定期講話会は戦争遺構から考える講話と体験者の記憶の聞き取り座談会を開催。県下市町に残る「遺構」を「戦争の傷あと」として次世代へ伝える滋賀県の取組みを紹介する。

9月14日に開催された第7回定期講話会は今堀治夫本会語り部ブロックアドバイザー（滋賀県遺族会顧問）による学校における講話が披露された。

滋賀県遺族会では令和5年度より県下各市町に残る戦争の遺構（防空壕跡、学童疎開受入れ学校跡等）を探し、資料を集め、19市町において風化防止すべき事象を検討し、資料をまとめた。その中から、今堀氏の地元東近江市で行われた琵琶湖周辺の「内湖の干拓事業」における連合国軍捕虜と学徒の勤労動員を伝える講話を披露。



征途を前にして

陸軍兵長 黒崎 芳夫

昭和十九年七月十八日
マリアナ諸島サイパン島にて戦死
東京都大森区馬込町出身 二十三歳

皇國最大の熱秋に当り
現神の御統帥し給ふ皇軍の一員として死處を得たるは我大和民族に生を棄けたる男子として最大の榮譽これに過ぎたるは無し。小生の喜び…満足…
固より生還は期し難く、只々誠を効し盡忠を旨とし、人事を盡して天命を待たんのみ。

二十有余年、数々の不孝を黙許し下された父上・母上様始め親族一同様には、何とも御禮の申上やうも之無く、今は只死を賭して君恩に報い過去の不孝を雪辱せんことは期せんのみ。

征途以前に於て、不肖劣輩を厚き情もて育英下された大森先生始め諸先生並びに先輩同輩の熱烈なる御薫陶に對しては、期待半ばに斃れたるを如何に詫びてよかるべきか。

最後に於て、皇國の萬歳を絶叫し奉り併せて皇室の彌栄を奉唱し奉る。

昭和十八年一月一日

征途を前にして

黒崎芳夫

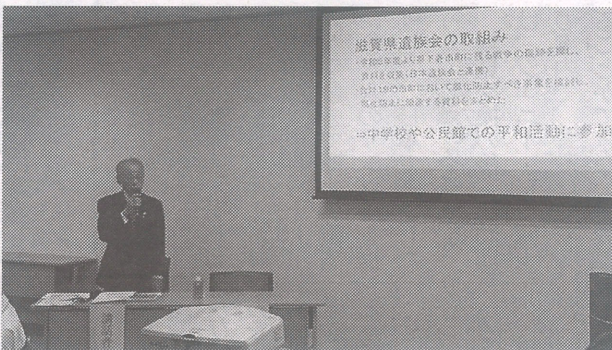
【令和七年十月靖国神社社頭掲示】
愛しきものへ

作業に当てられ、遠く石川県師範学校からも動員されていた事実を伝え、戦争は学生から教育を奪い、日常が失われると伝えた。

座談会では、身近な「遺構」として、忠霊塔、慰霊碑等について学生、次世代が質問。「自分の居住地に慰霊碑があると初めて知った」「遺構という特攻基地跡などを

イメージしていたが、身近にあると認識を新たにしたい（学生）。「今後は慰霊碑、忠霊塔のいわれを伝えたい」（体験者）など遺構を伝えたいとの意見が多く聞かれた。

次回10月18日（国際親善交流者のみ）、次々回11月9日、多様な形態の語り部を披露する予定。たくさんさんの参加をお待ちしている。



滋賀県の記憶の風化防止の取り組みを説明する今堀アドバイザー＝9月14日、九段会館テラスで



車座で体験者の記憶を聞き取る次世代、学生＝9月14日、九段会館テラスで

自分史アンケートから語り部へ

兵庫県女性部研修会を開催

本部は事業周知と育成の両輪を展開する本県の例と自分史の活用を説明。追悼式の追悼の辞での事業の意義の説明に加え、別途語り部講話を披露し、参列する首長、自治体、学校関係者へ広報すると共に、参列遺族への活動の呼びかけがマスコミにより報道され、依頼につながる好循環を生んでいる。

加えて、本部提供の自分史アンケートを藤本事務局長が改良。聞き取りも行い資料を作成。学校講話では地元遺族に青年部が同席し、PC操作、地域の歴史を話すなど、

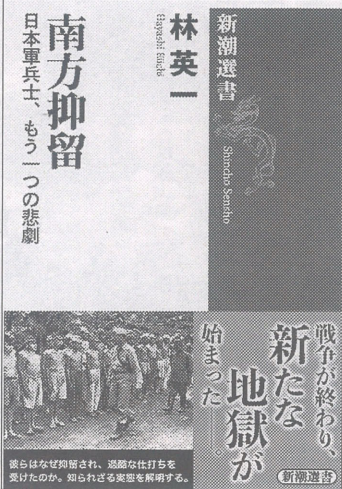


自分史から語り部へと呼びかける高垣女性部長＝9月2日、兵庫県で

本だな

本会が語り部を事業化し組織的に開始した令和5年度より本事業に共鳴、学生との参画、協働を提案、今後の継承のあり方に助言いただいている二松学舎大学林英一准教授の新作著書を紹介する。

南方東南アジアで行われた「南方抑留」を日本軍兵士の日記やオーラルヒストリーにより戦争の実相を多角的に伝えている。



林英一
南方抑留
日本軍兵士、もう一つの悲劇

地方だより

各支部遺族会で実施された大会等は次の通り。

▼徳島県 8月29日

令和7年度徳島県戦没者追悼式（500人）

▼兵庫県 9月2日

終戦80年兵庫県遺族会女性部語り部研修会（43人）

▼群馬県 9月12日

令和7年度群馬県遺族の会幹部研修大会（160人）

▼徳島県 9月13日

第101回語り部事業（40人）